白山（はくさん）森林生態系保護地域

白山大汝峰（2,702m）の北側から三方岩岳に至る白山の中枢部に位置する保護林で、低標高域のブナ林、亜高山帯のオオシラビソ・ダケカンバ林、高山帯のハイマツ低木林等、標高の差と変化に富んだ地形を反映した多様で豊かな植生が見られます。また、白山より西方には2,000mを超える山岳がないため、ハイマツやクロユリ、ホシガラスやオコジョ等、この地域を分布の西限や南限とする数多くの野生動植物が生息・生育しています 。

1

2

景観と植生 〈No.1～4〉

高標高地には、真夏でも雪が残る雪渓(1)や、夏にはお花畑になる高茎草原と分布西限のハイマツ林のグラデーション(2)が見られる。標高1,600m以下にはブナ林(3)、それより上にはオオシラビソ林、コメツガ林等の亜高山帯針葉樹林(4)が広がる。

動物 〈No.5、6〉

ハイマツの実を主食とするホシガラス(5)や、準絶滅危惧種のホンドオコジョ(6)が見られることも。

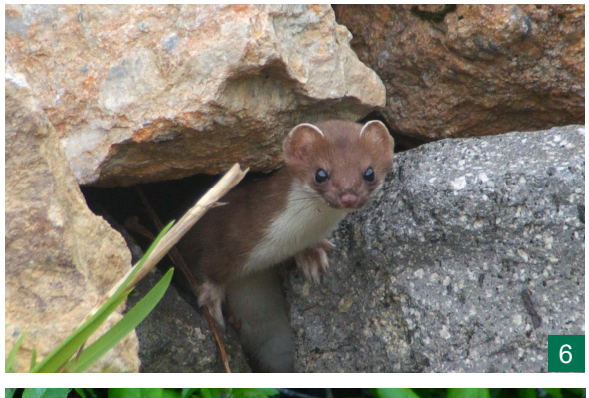
植物 〈No.7、8〉

日本海側の高山帯に分布するハクサンコザクラ(7)や、北海道・本州・四国の亜高山帯～高山帯に分布するハクサンシャクナゲ(8)など、白山で発見され、白山を名前の由来とする植物も多い。

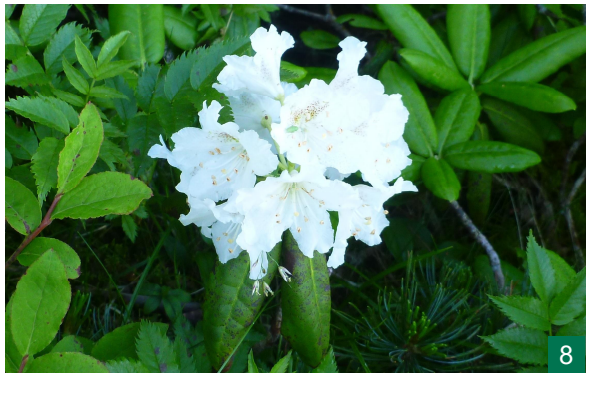
3

4

5

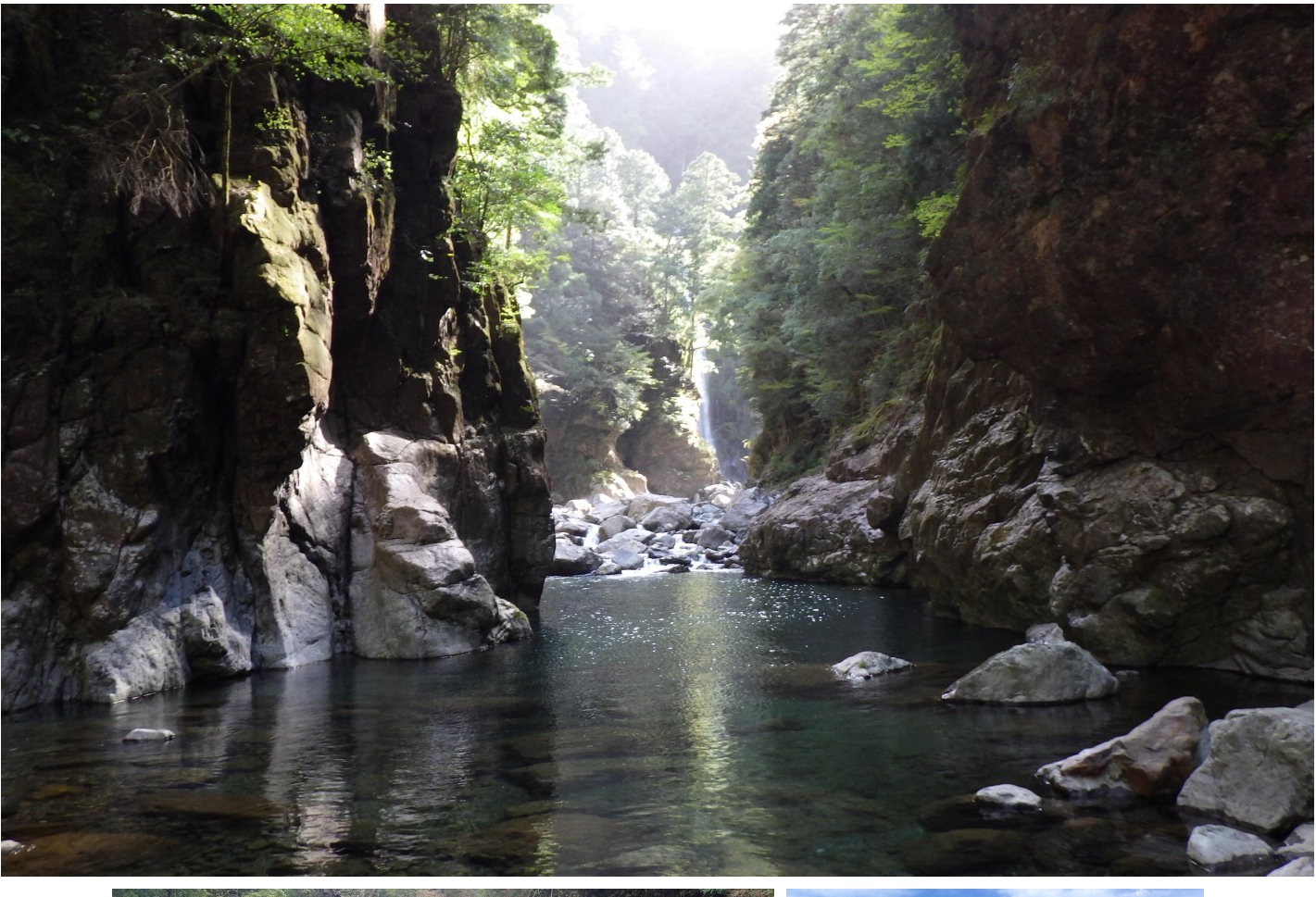

6

7


8

大杉谷森林生態系保護地域（おおすぎだに）

三重県最高峰・大台ヶ原山（日出ヶ岳1,695m）の北東部に位置し、近畿随一の秘境と言われる大杉谷。周辺は日本有数の多雨地帯で、激しい浸食作用により地形は険しく複雑で、谷はＶ字に切れ込み大小様々な滝が見られます。独特の気候や変化に富んだ地形等により植物相が多様で、特に、低標高域の常緑広葉樹林から高標高域の亜高山帯針葉樹林までの垂直分布が原生的な状態で広く保存されている点は、学術的にも高く評価されています。



1

2

景観と植生 〈No.1、4、5〉

巨大な滝つぼを持つ落差20m余りの水量豊かな堂倉滝(1)。滝の先には林道へ至る急坂が待っている。大台ヶ原ビジターセンターのある標高1,570m付近は冷温帯から亜高山帯への移行帯で、ブナとトウヒの針広混交林(4)が見られる。6～7月頃、渓流に彩を添えるサツキ(5)。

森林被害対策 〈No.2、3〉

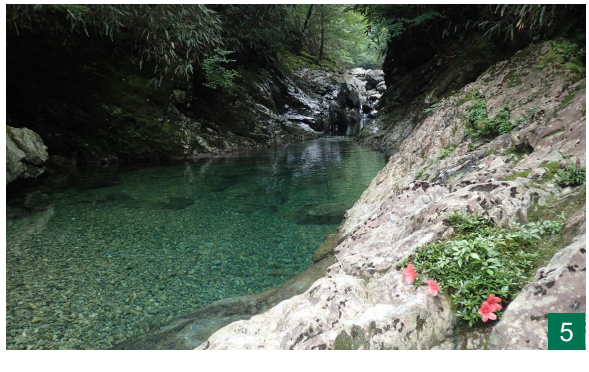
笹原の中に立ち枯れたトウヒが目立つ大台ヶ原付近の状況(2)。ニホンジカによる食害が森林衰退の一因とされ、ボランティアの協力も得て、トウヒの稚樹などを守る植生保護柵を設置している(3)。

動物 〈No.6、7〉

三重県の絶滅危惧Ⅱ類等に指定されているオオダイガハラサンショウウオ(6)、特別天然記念物のニホンカモシカ(7)等、山岳地帯の限られた地域のみに分布する貴重な種が数多く生息する。

3

4


5

6

7

※6の写真は幼体。